

# 「ミートジャーナル特別企画 混迷する時代の 明日のミートマーケットを読む」

コンサルタント・ジャーナリスト  
高橋 寛

# プロフィール

---

## □ 高橋 寛(たかはし ひろし)

1956年(昭和31年)生 岩手県出身

1975年 盛岡第一高等学校理数科卒

1979年 埼玉大学理工学部卒

1984年 国立台北師範大学国語教学中心で北京語履修

1990年 AUSMEAT QA(オーストラリア食肉品質保証)資格取得

商社勤務時代に12年間、米国・オーストラリア・台湾などに駐在。

商社を退社後、ニュージーランド最大手食肉会社日本法人代表 3年

2003年 有限会社ブリッジインターナショナル設立

現在コンサルタントとして、国内外企業のアドバイザー・顧問のかたわら

専門誌に執筆中

# 執筆書籍一覧



- ミートジャーナル(食肉通信社 連載中)
- ピッグジャーナル(アニマルメディア社 連載中)
- 近代食堂(旭屋出版 焼肉関連記事 連載中)
- ポークパニック (東京図書出版 2021年3月)
- ASF、畜産物・穀物高騰そして差額関税制度問題
- 豚肉が消える (ビジネス社 2007年7月)

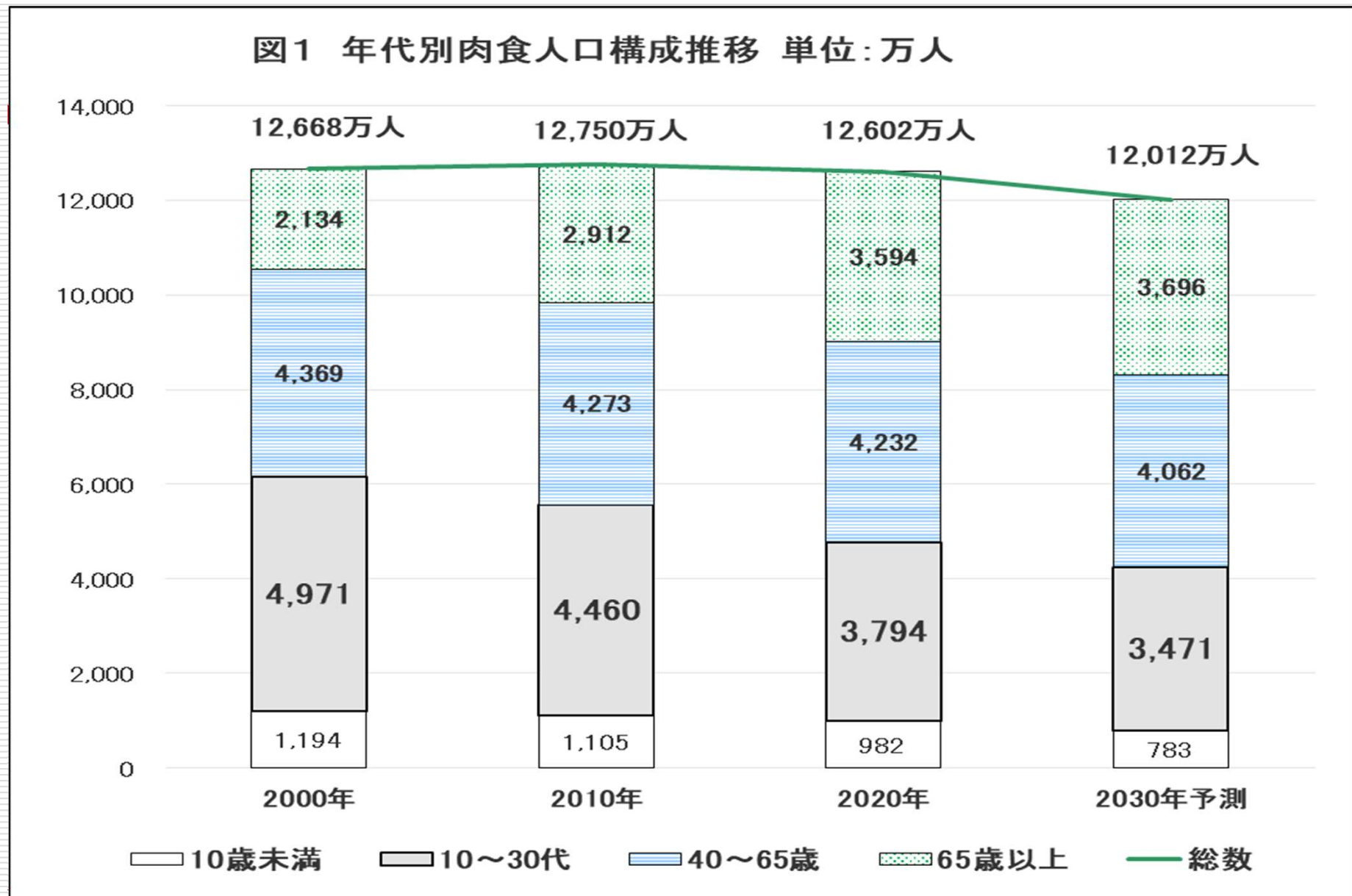


# 混迷の時代 発生が続く諸問題

---

- ① 為替円安・ドル高
- ② 地球温暖化と異常気象 干ばつと洪水
- ③ ウクライナ戦争と穀物、燃料の高騰
- ④ 新型コロナのパンデミック
- ⑤ 家畜伝染病の蔓延 (**ASF・CSF** 鳥インフル等)
- ⑥ 少子高齢化の食肉市場に与える影響の分析
- ⑦ 中国の動向 穀物高騰の背景
- ⑧ アニマルウェルフェア カリフォルニアの事例
- ⑨ 物流問題 労働争議と紅海イスラム過激派

# 食肉消費世代から見た少子高齢化



出典：2020年まで政府統計e-stat 人口推計

2030年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」データをグラフ化

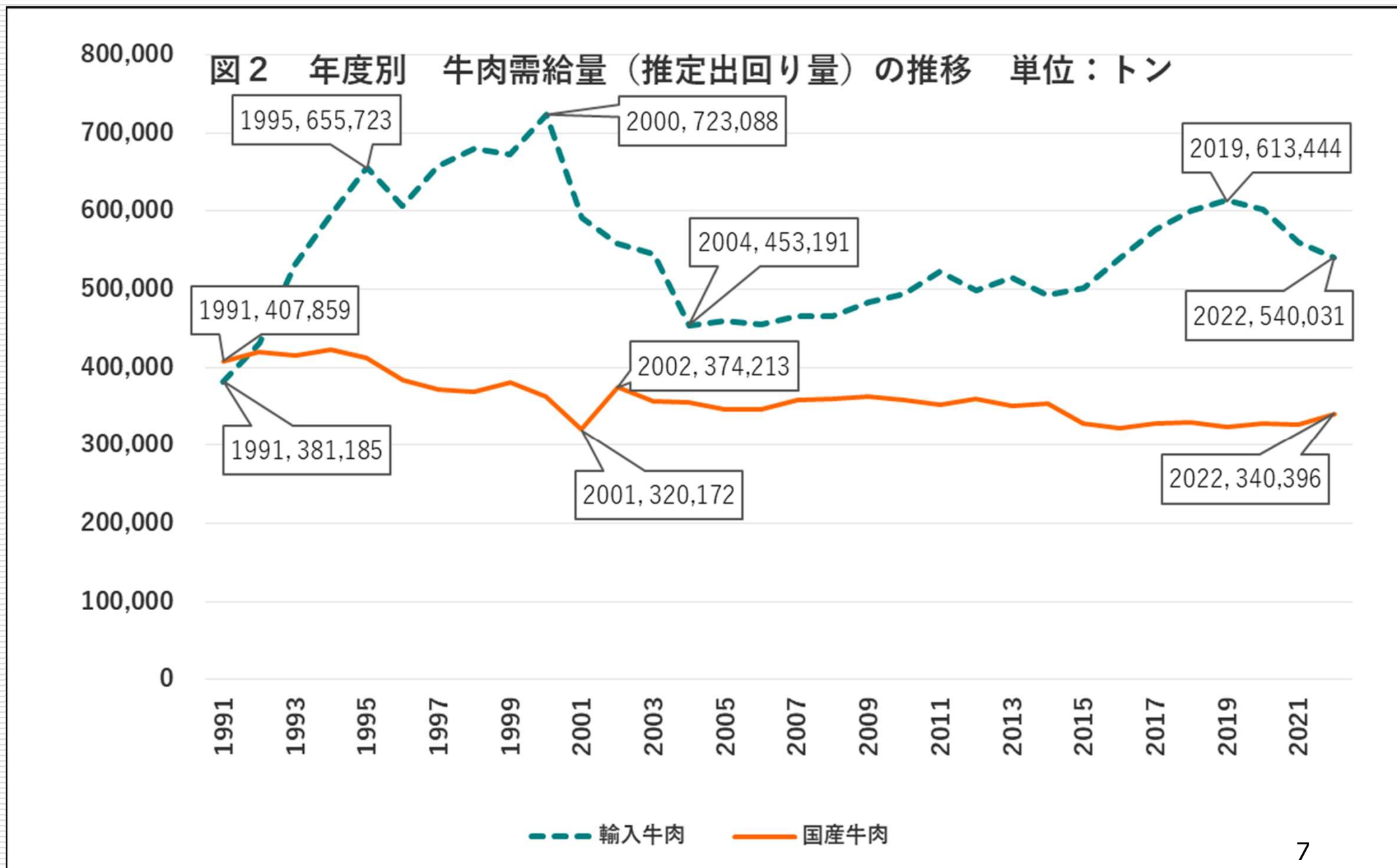
# 食肉消費世代の人口構成

(赤字は団塊の世代・団塊ジュニア)

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（令和5年推計）データを作図

世代の特徴	年 齢	2000年統計		2010年統計		2020年統計		2030年推計	
		5歳階級別人口	年齢別平均	5歳階級別人口	年齢別平均	5歳階級別人口	年齢別平均	5歳階級別人口	年齢別平均
将来の世代	0～4歳	593	119	538	108	474	95	386	77
	5～9	601	120	567	113	508	102	396	79
	小計	1,194		1,105		982		783	
輸入食肉消費世代 ガッツリ消費 食べ放題	10～14	669	134	593	119	534	107	457	91
	15～19	762	152	609	122	582	116	520	104
	20～24	882	176	687	137	636	127	577	115
	25～29	993	199	747	149	623	125	621	124
	30～34	870	174	850	170	669	134	654	131
	35～39	795	159	974	195	750	150	643	129
小計	4,971		4,460		3,794		3,471		
国産食肉消費世代 量より質だ！	40～44	785	157	860	172	864	173	670	134
	45～49	927	185	787	157	983	197	745	149
	50～54	1,003	201	771	154	860	172	837	167
	55～59	889	178	897	179	776	155	965	193
	60～64	765	153	958	192	749	150	844	169
小計	4,369		4,273		4,232		4,062		
年金世代 霜降りは勘弁して！	65～69	697	139	838	168	855	171	752	150
	70～74	577	115	693	139	884	177	683	137
	75歳以上	860		1,381		1,855		2,261	
小計	2,134		2,912		3,594		3,696	6	
総人口	合計	12,668		12,750		12,602		12,012	

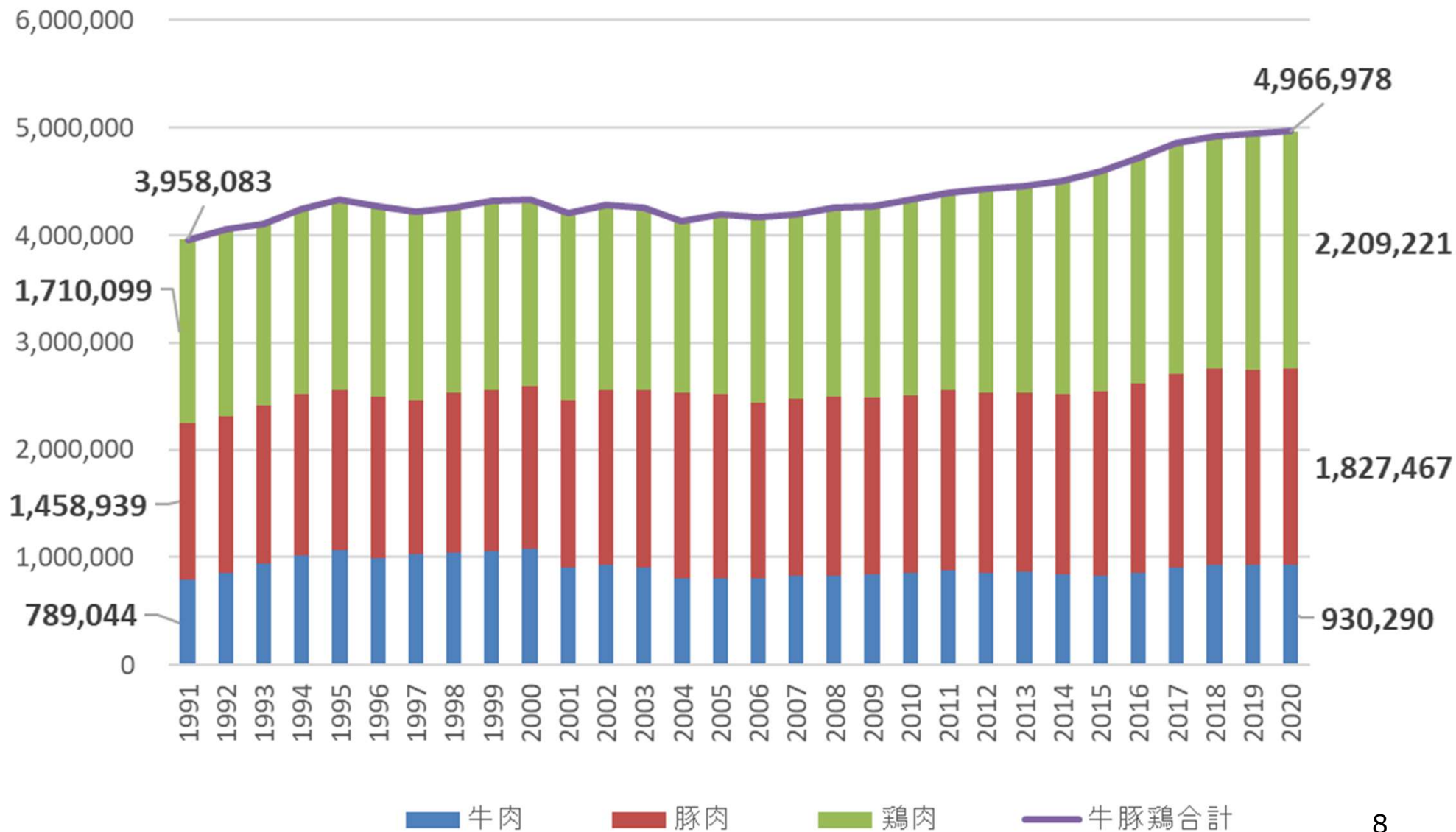
# 牛肉消費の変化 高齢者にA5はきつい 輸出もA3がベスト？



出典：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」をグラフ化

# 食肉消費は鶏肉と豚肉が増加

図 牛豚鶏肉の需給量推移 単位トン

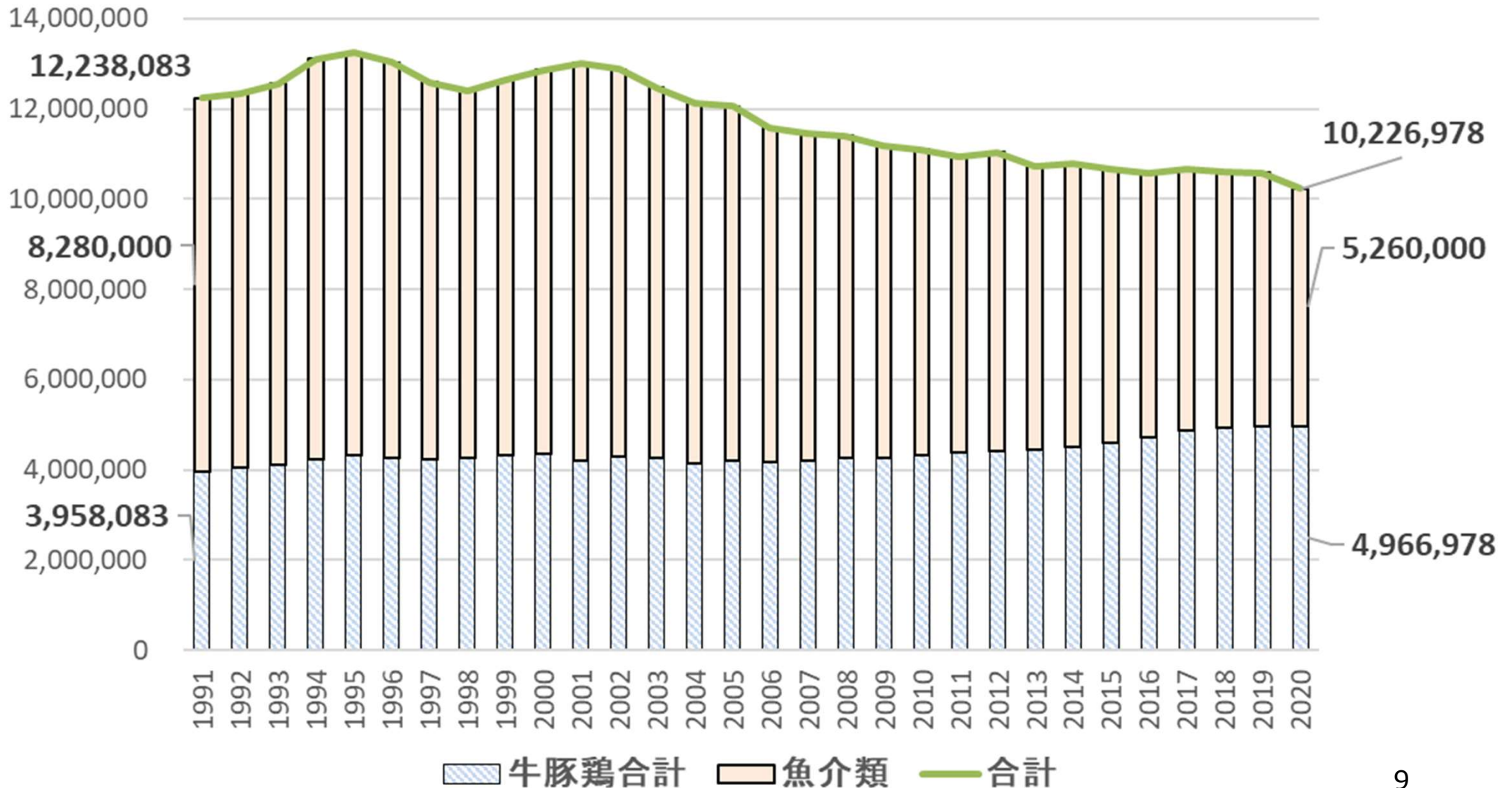




# 水産物消費が減少中 なぜ？ 乱獲で漁獲減の影響??

EEZ 200海里 米ソ 1977年 国連海洋条約 1996年、NY寿司ブーム 1970年代後半、和食 ユネスコ文化遺産 2013年

図3 食肉需給量と魚介類の消費仕向量の推移 単位:トン



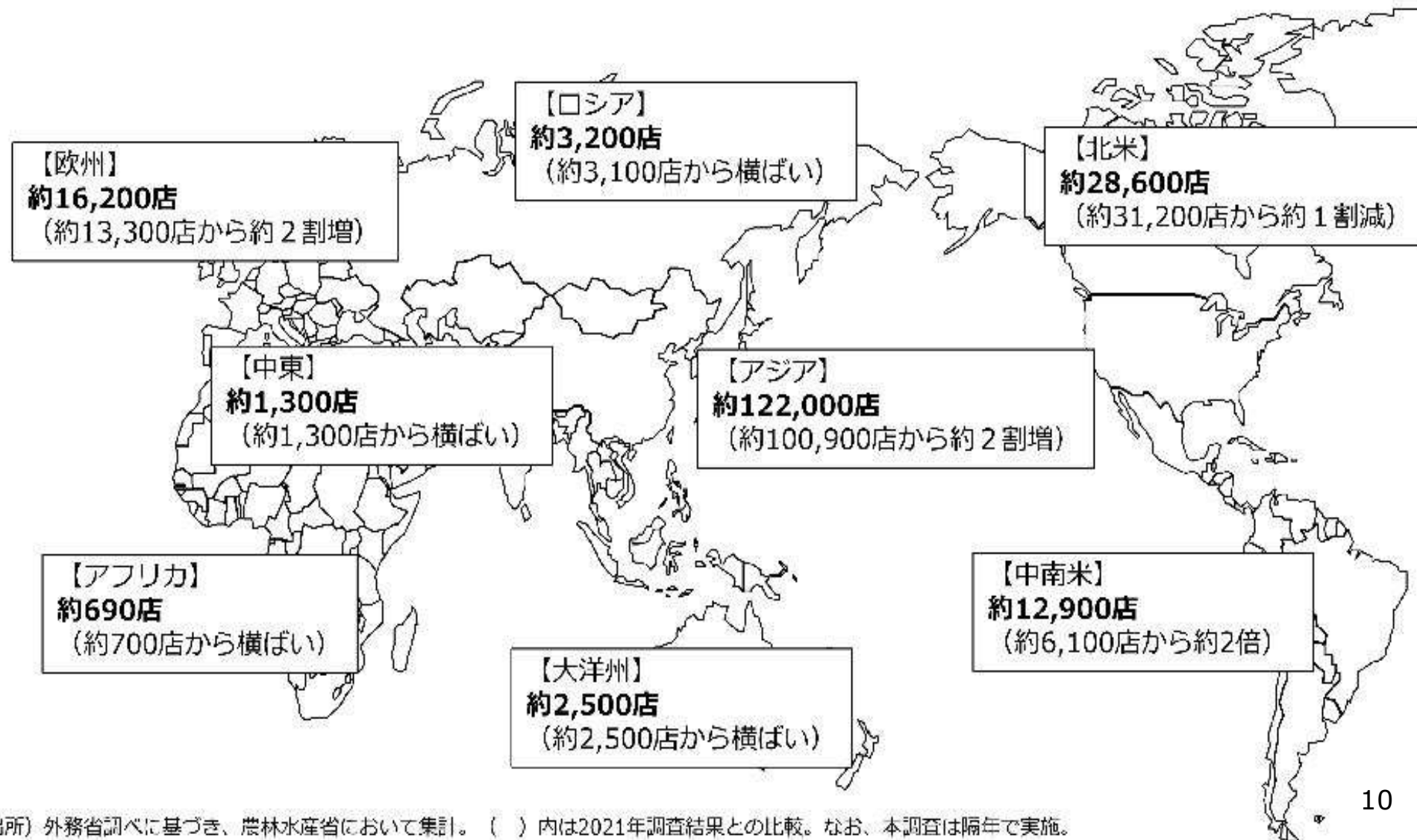
出典：農林水産省「食肉流通統計」「食料需給表」、財務省「貿易統計」をグラフ化

# 海外における日本食レストランの概数

出典：農水省

輸出・国際局  
輸出企画課  
令和5年10月13日

- **2023年の海外における日本食レストランは、2021年の約15.9万店から約2割増の約18.7万店。**  
約2.4万店(2006年)→約5.5万店(2013年)→約8.9万店(2015年)→約11.8万店(2017年)→約15.6万店(2019年)→約15.9万店(2021年)→約18.7万店(2023年)  
(7年間で2.3倍) (2年間で1.6倍) (2年間で1.3倍) (2年間で1.3倍) (2年間で微増) (2年間で1.2倍)
- ※2013年12月「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録。
- **地域別増減は、アジア約2.1万店増、中南米約0.7万店増、欧州約0.3万店増／北米約0.3万店減**



(出所) 外務省調べに基づき、農林水産省において集計。( )内は2021年調査結果との比較。なお、本調査は隔年で実施。

<https://note.com/bridgeinter/>



クリック

“高橋寛 note”で検索 「食肉の話」「日本台湾中国の話」

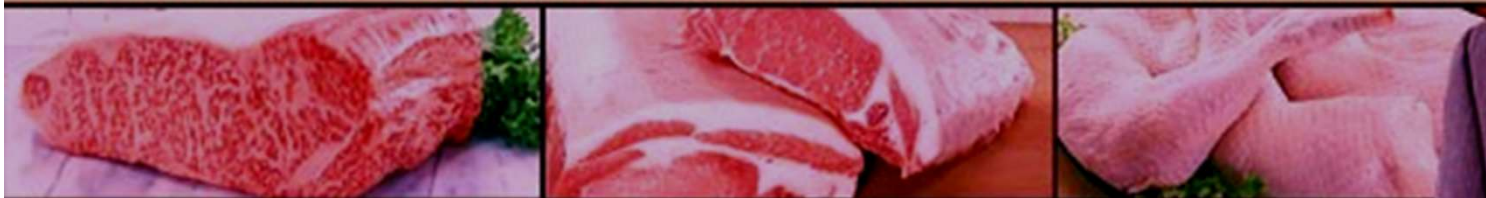
時代の先を読むセミナー承ります。

[takahashi@bridgeint.name](mailto:takahashi@bridgeint.name)

**Thank you !**

ミートジャーナリスト  
有限会社ブリッジインターナショナル代表取締役

高橋 寛



[www.b-int.co.jp](http://www.b-int.co.jp)

Takahashi Hiroshi

